

東京都 スポーツ推進委員だより

第120号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

令和2年3月31日

編集：情報委員会

社員総会



令和2年度事業方針・事業計画概要

注：事業方針・事業計画は3月27日社員総会資料に基づいています。日程変更があることをご了承ください。

【方針】

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大しており、世界保健機関は3月6日、感染者数が10万人に近づいたと発表し、各国政府に感染拡大の防止対策を最優先課題にするよう求めました。日本においては政府が2月26日、国民に対し、この1、2週間が感染拡大防止にきわめて重要であるとして多数の方が集まるような全国的なスポーツ、文化については、今後2週間は中止、延期又は規模縮小等の対応を要請しました。私たちは、これ以上感染が広がらないよう、一人ひとりがウィルス感染を正しく恐れ、節度ある行動をしていく必要があります。

こうした中、今年7月に迫った2020東京オリンピックについて、IOCのバッハ会長は予定どおり実施する方向を表明しています。一方、一部委員の中には延期を求める声も出ており、また、聖火リレー関連イベントも規模を縮小して行う方針が示されるなど、予断を許さない状況が続いています。

しかし、国を挙げての取り組みが進められていることから、このような状況はいつまでも続くはずはなく、そう遠くない時期に沈静化すると考えられます。その時に備え、私たちは準備や心構えをしておく必要があります。

スポーツ庁は、昨年7月にスタートさせた取り組み「Sport in Life」プロジェクトにおいて、2020年東京大会のレガシーについて「スポーツを行うことが生活習慣の一部となる、そのような姿を目指し、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会を実現していく。そして健康で活力ある社会へ。それがスポーツ庁の目指すレガシーである。」と表明しています。また、スポーツ実施率向上のための中長期的な施策（令和元年8月7日スポーツ庁長官決定）では、①地域におけるスポーツ環境の整備、②スポーツに関わる関係団体と連携したスポーツ実施の推進、③障害者スポーツの推進、④エビデンスに基づく健康スポーツ政策の取組の促進の4つの分野を柱としてとりまとめています。その中の「地域におけるスポーツ環境の整備」には、スポーツ推進委員の活用の促進が謳われ、資質向上のための研修の充実、優れた人材発掘のための働きかけ、地方自治体の健康部局、障害福祉部局等との連携による活用などが示されています。

スポーツ推進委員への期待はその時代背景によって変わってきました。今求められているのは他分野と連携したスポーツ実施率向上への取り組みです。都スポ協はこの期待に応えられるよう、引き続きスポーツ推進委員の資質向上に向けた事業展開をしていきます。

令和2年度の事業は、2020東京大会の関係で秋以降に集中することになりますが、会員皆さまのご理解、ご協力を得ながら進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

【会議】

1. 社員総会

第1回 5月16日(土) 文京区区民センター、
文京シビックセンター

第2回 9月30日(水) 武蔵野公会堂

第3回 12月9日(水) 江東区深川スポーツ
センター、毬乃

第4回 3月24日(水) 武蔵野公会堂

臨時総会 7月15日(水)

2. 理事会

4月8日、5月13日、6月10日、7月8日、
9月9日、10月14日、11月18日、
1月13日、2月10日、3月10日

3. 各委員会（女性委員会を含む） 随時開催

4. 会長会 6月21日(日) 中野区産業振興会館

5. 監事監査 5月 日()

6. 表彰審査会 4月 日()

関東大会功績者及び都スポ協功労者

5月 日()：全国大会功労者等

於：都スポ協事務所

7. その他 特別委員会は必要に応じ随時開催

【事業】

1. 東京都共催事業(予定)

(1) 広域地区別研修会

・広域地区別研修会開催地区

地区	担当地区	期日	会場
第1B	千代田区	9月13日(日)	昌平童夢館
第2B	荒川区	11月21日(土)	荒川総合スポーツセンター
第3B	世田谷区	9月12日(土)	うめとびあ

地区	担当地区	期 日	会 場
第4B	練馬区	11月28日(土)	練馬区生涯学習センター
第5B	葛飾区	9月26日(土)	テクノプラザかつしか
第6B	多摩市	9月12日(土)	国士舘大学多摩キャンパス
第7B	日の出町	9月19日(土)	日の出町立平井中学校
第8B	武蔵村山市	11月21日(土)	武蔵村山市中部地区会館
第9B	三鷹市	10月31日(土)	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
第10B	西東京市	11月7日(土)	西東京市南町スポーツ・文化交流センター
第11B	新島村・ 神津島村	11月27日(金)	ニューピア竹芝サウスタワー

・ブロック責任者会議(令和3年度担当地区): 7月15日(水)

※変更の可能性あり

(2) 課題別研修会

研 修 会 名	期 日	会 場
	11月 日()	未定

(3) 地域スポーツ支援研修会

研 修 会 名	期 日	会 場
地域スポーツ支援研修会 (区部)	1月23日(土)	港区男女参画センター『リーブラ』
地域スポーツ支援研修会 (市町村部)	2月13日(土)	立川市女性総合センター『アイム』
地域スポーツ支援研修会 (全域)	未定	未定

(4) 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

日程: ①1/16(土) ②1/17(日) ③1/24(日)
④1/30(土) ⑤1/31(日)

会場: SUBARU 総合スポーツセンター(三鷹市)

(5) 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会

日程: ①10/3(土) ②10/4(日) ③10/31(土)
④11/1(日) ⑤11/14(土) ⑥11/15(日)
⑦12/12(土) ⑧12/19(土) ⑨12/20(日)

会場: ①②武蔵野総合体育館、
③④品川区総合体育館、
⑤⑥東京都多摩障害者スポーツセンター、
⑦⑧⑨くにたち市民総合体育館

2. 自主事業

(1) 研修事業

研 修 会 名	期 日	会 場
初任者講習会	6月 日()	未定
ニュースポーツ	6月 日()	未定
実務研修会	※ニュースポーツと合わせて1回で行うことを検討	
交流ポッチャ大会 ※各地区2名までの参加者とし、4人1チームとすることを検討	10月4日(日) ※または 12月20日(日) 12月13日(日)	※バドミントンコート6面以上とれる体育館等がありましたらご連絡願います。
女性委員会企画研修会	12月5日(土)	未定

(2) 東京都スポーツ推進委員だより及び

ホームページの配信

(3) 調査研究・資料収集

(4) 顕彰(スポーツ推進委員功労者の表彰)

- ①(一社)東京都スポーツ推進委員協議会の表彰(功労者、感謝状、特別表彰)
- ②(公社)全国スポーツ推進委員連合の被表彰候補者の推薦(団体と個人)
- ③関東スポーツ推進委員協議会の被表彰候補者の推薦

3. 派遣事業

(1) 関東スポーツ推進委員研究大会

6月12日(金)~13日(土) 茨城県つくば市

(2) 第61回全国スポーツ推進委員研究協議会

11月12日(木)~13日(金)

栃木県宇都宮市ブルックスアリーナ

(3) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2021

2月5日(金) 群馬県高崎市Gメッセ群馬

(4) スポーツ推進委員リーダー養成講習会

月 日(金)~ 日(土)

【協力事業】

1. 東京都(予定)

①東京都生涯スポーツ担当者研修会

月 日()

②障害者スポーツセミナー

6月27日(土) 新宿区四谷スポーツスクエア

2. 新宿シティハーフマラソン

1月24日(日)

3. 東京マラソン

3月7日(日)

4. (公社)全国スポーツ推進委員連合

(1) 機関誌「みんなのスポーツ」の購読促進

(2) 「スポーツ推進委員手帳」「スポーツ推進委員ハンドブック」の普及推進

(3) シンボルマークのグッズの普及推進

(ジャンパー・ポロシャツ・バッジ・ペンダント・ネクタイ・タイピン・ピンブローチなど)

(4) 賛助会員としての協力促進

(5) その他関連事項等

【その他】

1. (公社)全国スポーツ推進委員連合理事会・総会

6月11日(木)

2. 関東スポーツ推進委員協議会理事会

6月12日(金)

2月 日()

(令和元年度第4回社員総会資料より)

研修会

地域スポーツ支援研修会（区部）

令和2年1月25日(土)午後1時40分から港区男女平等参画センター『リーブラ』において、地域支援研修会(区部)が、123名の参加者で開催されました。

東京都地域スポーツ支援研修会



冒頭、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部地域スポーツ振興担当課長 神野美和様のご挨拶と都スポ協 新島二三彦会長の挨拶があり、研修会、トークセッション

の順に行われました。

研修会では、講師の早稲田大学スポーツ科学学術院准教授・弁護士 松本泰介様から、「スポーツを取り巻く環境とスポーツ・インテグリティ」というテーマでご講義いただきました。

インテグリティとは高潔性を意味しており、現在、様々なスポーツインテグリティの問題が散見されている。

それはいくつかの類型に分類されるが、日本においては、八百長やドーピングなど直接プレー及び試合結果に関連するものは比較的少なく、暴力やハラスメントなどスポーツの自由及び平等に関連するものが多い。暴力の問題は、2013年のJOCなどによる「暴力をなくす」との宣言以降減少しているが、未だ撲滅には至っておらず、最近では動画など画像に残ることで発覚するケースが増えている。「暴力指導はどこまで許されるのか?」と問われることがあるが、そもそもその問いが間違っており、その範囲ではなく暴力指導そのものが許されるべきではない。また、ハラスメントの問題に関しては、法律上の定義はあるが、その具体性が乏しいなどの難しい点が多い。



スポーツ関係者の不祥事に関して、社会的影響力が大きく、初期対応を誤ると致命的ダメージを受けてしまう。その上で、迅速な対応が求められるが、経験者が少ない課題がある。さらにスポーツ事故も多く発生しているが、その内容が人災である事が多々見受けられる。スポーツ界の不祥事を減らしていくには、各競技団体におけるコンプライアンス組織の整備、さらにはコンプライアンス教育の充実が必要である。

各種スポーツの指導及び組織運営に携わっていく上で、日頃より気を付けなければならないご指摘が多いご講義でした。



後半のトークセッションでは、「スポーツ推進委員の資質向上に向けた取り組みと活動におけるマナー」というテーマに沿って、都スポ協研修委員会 脇元章博の進行で、区部の中から5地区のスポーツ推進委員、千代田区の瀧吉晴様、荒川区の増子成枝様、世田谷区の金矢光久様、練馬区の太田雄三様、葛飾区の長峰政子様から、各地区での現状や具体的な取り組みについてお聞きしました。



記事・写真 平野 秀夫 情報委員会（江戸川区）

研修会



地域スポーツ支援研修会（市町村部）

令和2年2月8日(土)午後1時40分から立川市女性総合センター『アイム』において、地域支援研修会(市町村部)が、148名の参加者で開催されました。

冒頭、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部地域スポーツ振興担当課長 神野美和様のご挨拶と都スポ協 岡田眞由美副会長の挨拶があり、研修会、トークセッションの順に行われました。

研修会では、講師の弁護士 椿原直氏から、「スポーツを取り巻く環境とスポーツ・インテグリティ」というテーマで、「スポーツインテグリティとは」、「暴力・ハラスメントへの対応」、「スポーツ外での不祥事」、「スポーツ事故とインテグリティ」、「不祥事が起こったら」といった観点からご講義いただきました。



暴力とスポーツについては、指導者の暴力には次のパターンがあり、「確信犯型」は暴力をふるうことを誤りと思わず、「指導法わからず型」

は暴力に頼る指導方法しか知らず、「感情爆発型」は抑制できずに暴力をふるってしまい、さらに「暴力好き

型」の4種類がみられる。特に「暴力好き型」については解決方法がなくすぐに通報すべきである。さらに、スポーツ事故とインテグリティについては、落雷事故と脳震とうの実例が示されました。

いずれも、スポーツ推進委員として活動していく上で、重要な視点をご提供いただいたご講義でした。



後半のトークセッションでは、「スポーツ推進委員の資質向上に向けた取り組みと活動におけるマナー」というテーマに沿って、都スポ協研修委員会 中村光宏の進行で、市町村部の中から4地区のスポーツ推進委員、多摩市の内藤好美様、日の出町の救使河原麻美様、武蔵村山市の長嶺毅様、三鷹市の渡部実知子様によって、各地区での現状や具体的な取り組みについてお聞きしました。

記事・写真 島貫 金雄 情報委員会（国分寺市）

研修会



地域スポーツ支援研修会（全域）

令和2年2月15日(土)午前9時50分から墨田区曳舟文化センターにおいて、地域支援研修会（全域）が、午前の部68名、午後の部63名の参加者で開催されました。

午前の部は、お茶の水女子大学基幹研究院教授 水村眞由美様から「女性・子どものスポーツ参加に向けて」というテーマでご講義いただきました。

生きていく力は体力であり、スポーツを行うことで元気になるということは生きるための基本となる。それを継続することが重要で、参加したイベントなどで知り合いが増えたり友人ができることも、継続の後押しとなる。子どもは、褒められて楽しい思いをするとスポーツ嫌いにならない。子どもの内にスポーツ好きになることは大きなポイントで、その子ども達は大人になってもスポーツを続ける。子どものスポーツ及び外遊びには、「時間・空間・仲間」の「さんま（3つの間）」が重要で、そこに「手間」を加えて、親が子ど

ものスポーツをする環境づくりのために、外に連れ出すことや各種イベントに参加することが必要である。また、まずは子どもが興味を持つように、同世代の人気者がスポーツのきっかけを伝えたり、学校で流行り



にしたり、インスタ映えスポット・限定品を創出するなど、きっかけとなるものを提供することも必要だ。例えば、ダンスのように、好きなことをやらせて、それをスポーツとみなすことも良い。

幼児から成人女性まで、年代別に各種統計データをお示しいただきながらのご講義で、健康寿命のためにいかにスポーツが重要であるか再認識させられました。今回の講義内容を地域に持ち帰り、継続できるスポーツを参加者の皆さんにより楽しんでいただく工夫の必要性を感じました。

午後の部は、ジャパン ライフ フィットネス ネットワーク代表 多田ゆかり様から、「親子で楽しむスポーツレクリエーション」というテーマでご講義及び実技指導をいただきました。



体は動かさなければ衰えてしまうので、意識して動かす必要がある。親子で一緒にふれあうコミュニケーションが取れることは大きな意味を持ち、それは大切な時間になる。心と体の健康づくりは脳づくりか

ら始まる、走ること、ピアノを弾くこと、計算をすること、それらの行為が楽しいと感じるのはすべて脳の働きによるもの。

実技では、コミュニケーションの第一歩としてカテゴリーごとのグループ作り、好きな季節、血液型、誕生日など、自らで声を出し合って仲間集めを行うが、思った通りいかず同一グループが複数できてしまうなど思わず笑いが起きるワクワク感を感じました。次に、2人組のペア作り、次々に相手を代えていった後、「3番目のペア」、「1番目のペア」など脳をフル回転させて相手探し、そのペアで身体やタオルを使った様々なゲームを体験しました。同じエクササイズでも、使用する物の種類や大きさに変化を持たせることで、幅が大きく広がることを実感しました。

多田氏は、講義を行う時には、会場が暗くなり参加が眠くなることを避けるためにプロジェクターではなくホワイトボードなどを使用したり、配布資料はより見やすくするために13ポイント以上の文字でカラーで配布するなど、参加者の目線に立った準備を行っており、参考になる点が多く見受けられた。講義終了後に、ひとりひとりに講師から手渡していただいた手作りしおりには、「大切なのは、どれだけたくさんのかををしたかではなく、どれだけ心をこめたかです。」とのマザーテレサの印象深い言葉が記されていました。

記事 仲 豊子 情報委員会 (台東区)
長峰 政子 情報委員会 (葛飾区)
写真 小久保 佳昭 情報委員会 (八王子市)

研修会



生涯スポーツ・体力づくり全国大会 2020

令和2年2月7日(金)に生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020が、島根県松江市において開催されました。その趣旨は、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討するというものです。会議は全体テーマを「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーに向けて ～Sport in Life (スポーツ・イン・ライフ)～」とし、午前には表彰式と全体会、午後には4つの分科会が行われました。

1. 表彰式 (令和元年度体力づくり優秀組織表彰)

今年度は、各都道府県教育委員会等から推薦された10組織(文部科学大臣賞4組織、体力づくり全国会議議長賞6組織)が表彰され、東京都では武蔵野市が体力づくり国民会議議長賞を受賞しました。

2. 全体会 (トークセッション)

テーマ: みんなで一緒に Sport in Life で生き生き

とした人生を!



ファシリテーターに福田光男氏(NHK松江放送局アナウンサー)、スピーカーに①鈴木大地氏(スポーツ庁長官)、②原久美子氏(循環器中町クリニック院長、大井町クリニック理事長、マーマポノ株式会社代表取締役)、③ペナルティ ワッキー氏(吉本興業株式会

社所属タレント)の3名を迎え、福田氏が各スピーカーに質問しながら展開していくという形式で行われました。

原氏の指導により会場全体でフラダンスをプチ体験した際、福田氏のぎこちない動きをワッキー氏が突っ込むといった場面もあり、会場が大いに湧きました。

〈各スピーカーの発言要旨〉

鈴木長官：自分は(夏場を除き)毎日13階のオフィスまで階段で上がっている。散歩もスポーツで良い。仕事の前後にスポーツをする朝活・夕活をする人が増えている。スポーツは、体を壊さず生涯にわたってできるよう「一定量を決めて」を推奨している。EIM(Exercise is Medicine=運動は薬である)という活動がある。薬の代わりに先ずスポーツをとということだ。

原氏：犬が3頭(うち大型犬2頭)いて、1頭ずつ散歩することで歩く距離を稼いでいる。フラダンスを教えていて、クリニックの2階にスタジオを設置して、運動療法も行っている。フラダンスはゆっくりした動きだが、4メッツから9メッツ程度の運動量がある。エビデンスもあり効果が確認できている。運動は楽しくないと続かないし、続かないと効果がなくなる。「ファッショナブル」も要素だ。

ワッキー氏：40歳から毎日腕立てを、歳の数だけ行っている。レッグランジも行っている。エスカレーターは使わず階段を上っている。日レクと共同開発した「スポーツテンカ」(向かい合ってボールを投げ合う)の普及に努めている。上手くできない子には、手渡しして投げてもらおう等、成功体験を積み重ねていくことが大事。スポーツテンカでは、審判員は判断がつかないときは「ピミュー」とコールする。こういうルールがあっても良いのではないかな。

〈全体会のまとめ〉

ワッキー氏：これからもスポーツを通じた仕事をしていきたい。

原氏：リハビリとレクリエーションの垣根をなくしていきたい。運動療法は間違いなかった。

スポーツを行うことが生活習慣の一部になる
そのような姿を目指し
一人でも多くの方が
スポーツに親しむ社会を目指していく
そして健康で活力ある社会へ

それが
スポーツ庁の目指すレガシー

鈴木長官：これからは笑いや医療といった異分野も巻き込んで展開していく。健康のみならずビジネスにも繋がる。2020大会のメダリストには世の中のための活動を期待したい。地方はその環境を活かしてスポーツで活性化を図っていくことが大事。

3. 分科会(第2分科会)

テーマ：人生100年時代!「楽しさ」を重視したスポーツ・レクリエーションの可能性

コーディネーター：松尾哲矢氏(立教大学コミュニティ福祉学部教授)

パネリスト及び発表内容：①井上成美氏(一般社団法人日本ウォーキング協会専務理事)、②岩本冷子氏(島根県レクリエーション協会事業委員長)、③城野和則氏(熊本県南関町教育委員会生涯学習係長)、④ペナルティワッキー氏(吉本興業株式会社所属タレント)



井上氏：「様々な人を『歩く』魅力に引き込む仕掛け」「歩けば風の色が見えてくる」。自分の足でいつまでも歩きたいという人が多いが、ただ歩くだけでなく、仲間を作ることが大事。100歳まで生きるのか、生かされるのか。歩いているうちに仲間はできる。他団体と連携を組むためには、押し付けないことだ。自分たちのやっていること、出来ることを伝え、相手の困っていることを聞いて対応する。

岩本氏：「誰もが楽しめる!!レクリエーションによる子どもの体力向上の取組」

レクリエーションによる体力向上事業について説明。自分が楽しくなくて子どもが楽しいわけがない。「やることが面白い」に引き込む。一緒に楽しむことが大事。連携しているのは10団体。役割分担を明確にしている。課題を出して意見を聞くことが大事。

城野氏：「子どもの体力向上における他団体との連携」行政が主体だと「やってあげる」「やってもらおう」になってしまう。何が足りないか、誰が必要かを考えて連携する相手を選ぶ。吉本興業とのつながりは日レク。投能力向上のプログラムでは直接アポ取りした。「やってみよ

う」は補助金でも良いが、補助をもらっている間に先を見てエビデンスを取ることが大事。ワッキー氏：「誰もが楽しめるスポーツテンカの仕掛け」スポーツテンカで大切なことは、子どもを楽しませること。人は顔を見るので、表情を豊かにして引き付ける。キチンとすべきはし、ポコッとすることも必要。舐められないように、最初に高度な技を見せて心をつかむ。高齢者はいじると喜ばれる。子どもの場合は、表情に緩急をつける(例:いないいないばあ)。しゃべり方も大事。敬語ではなく仲間感覚が良いと思う。

＜分科会のまとめ＞

井上氏：ウォーキングはただ歩くだけでなくフェイス to フェイスが大事。「幸せ、元気、明るく」で行こう。

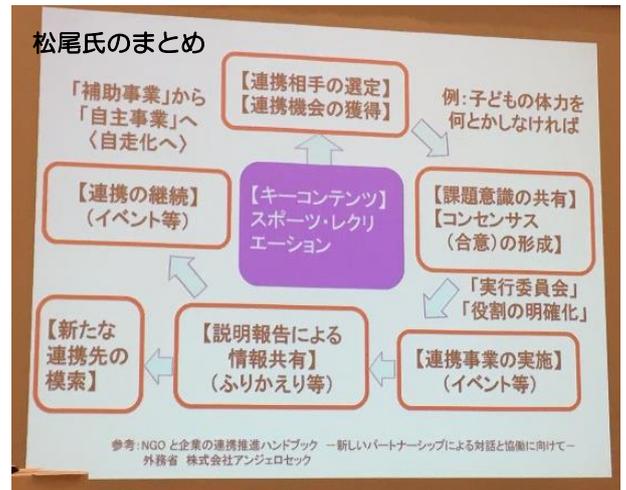


スポーツテンカを体験する参加者

岩本氏：スポーツテンカの指導を増やしていきたい。
 城野氏：子どもの体力向上が今後のキーワード。知っててやらないは罪。この指とまれでやっていく。
 ワッキー氏：日レクの元気アッププログラムを押ししていく。
 松尾氏：スポーツ・レクリエーションの強みを生かして、連携を制するものは、地域のスポーツを制する。

【会議全体を通して感じたこと】

- ① スポーツ実施率を上げていくには、「スポーツ」だけで押していくのは難しい。全体会のセッションのように、医療、お笑いなど様々な分野との連携を図り、「運動＝楽しいもの」とする工夫が不可欠な時代になってきている。
- ② 分科会では「スポーツテンカ」興味が集まったこと、東京女子体育大学と吉本興業が共同開発した「投能力向上ダンス」の紹介など子ども中心の展開となったが、全体会と同様、運動を楽しめるものに、という方向性が示された。
- ③ スポーツ庁の目指すレガシーが示された。これを現場でどう実現していくか、私たちスポーツ推進委員への期待は益々大きくなっていく。



記事・写真 会長 新島 二三彦

東京マラソン 東京マラソン 2020

令和2年3月1日(日)に東京都内において『東京マラソン2020』が開催され、スタートの東京都庁から、約200人のランナーがフィニッシュの東京駅前を目指しました。

令和初の東京マラソンは通算14回目の開催で、東京オリンピックマラソン代表を決定する「MGC」(マラソングランドチャンピオンシップ)のファイナルチャレンジに位置付けられ、3万8000人の参加者と1万1000人のボランティアで行われる予定でした。

しかし、世界的に流行しつつある新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大阻止の観点から、一般参加者の部門は中止され、エリートの部門のみの開催となりました。それに伴い、ボランティアもリーダーのみの参加となり、東京マラソンEXPOなどの関連行事も中止されました。さらに応援についても、日

本陸上競技連盟から沿道応援自粛が発表されました。



当日は、天気にも恵まれ、素晴らしいコンディションの中で開催され、例年の賑やかさから一転して、静か

な東京の街を、エリート選手達の息遣いが響く大会風景となりました。

東京都スポーツ推進委員協議会としても、約100名のボランティア派遣を予定しておりましたが、前出の状況から数名の派遣と変更になりましたが、厳戒態勢の中、マスク着用の上、例年同様コース整理に従事しました。

来年は再び、一般ランナーの笑顔とそれを後押しする沿道声援がコースいっぱいに溢れることを、心から希望します。



記事・写真 田辺 浩一郎 情報委員会(渋谷区)

各地区の情報



情報ひろば

【稲城市】

稲城市スポーツ推進委員協議会は市の掲げる目標「市民ひとり1スポーツ」を目標にすべての市民が年齢や体力に応じたスポーツを楽しむことができるよう活動しています。

最近の活動状況としましては、昨年度より2020パラリンピック東京大会の正式競技である「ボッチャ」の大会を開催しています。

ボッチャは、年齢や障害の有無を問わず、誰もが楽しめるユニバーサルスポーツです。

初年度の大会は、参加者は25チーム93名でしたが、スポーツ推進委員等が、市内の学校や団体へ赴き、様々なスポーツを推進・指導する「出前授業」でボッチャを行い、また、稲城市最大のお祭りである「iのまちいなぎ市民まつり」において、ボッチャの体験会を実施するなど、市内でボッチャに触れる機会を増やしたところ、今年度開催した第2回大会では、35チーム126名が参加し、前年から大きく参加人数が増え、とても盛り上がる大会となりました。

子どもとお年寄りが肩を並べ、競い合いながら楽し

んでいる光景は、他のスポーツではあまり見られないものであり、スタッフも楽しみながら大会を運営し、大きな感動・やりがいを感じて次への原動力となっています。今後はポッチャだけでなく、幅広いスポーツを推進し、市内のスポーツの発展へ寄与していきたいと思えます。



稲城市スポーツ推進委員協議会事務局

 編集後記 年号も平成から令和に移り変わり、最初の令和元年度が終わりました。

今年に入って、新型コロナウイルス感染症の国際的な流行により、世界の状況は一変しました。それは時に、我々の価値観すら変え得るほどで、ただただ憂思を深くします。ご苦労ご不自由なさせて頂られる方には、心からお見舞い申し上げます。

そして東京2020オリパラすら延期の決定となりました。今は我慢の時、コロナウイルス終息後には、我々スポーツ推進委員の総力をもってスポーツで地域の皆様の笑顔を取り返したいと願います。

情報委員の皆さま、今年度、大変にお世話になりました。

編集 田辺 浩一郎 情報委員会(渋谷区)

#####